

経営比較分析表（令和5年度決算）

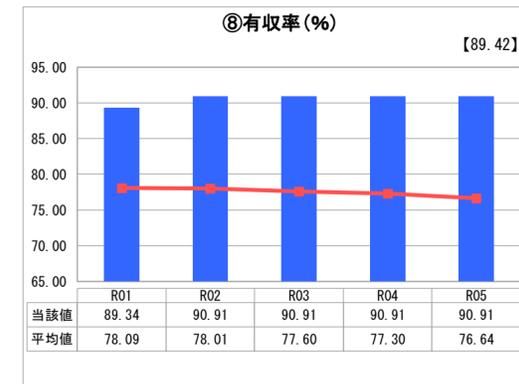
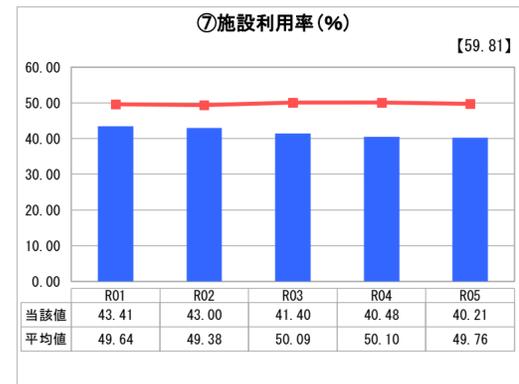
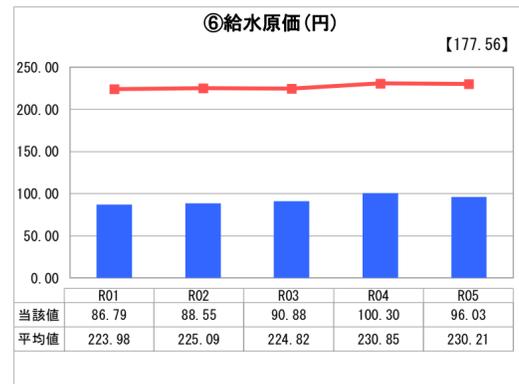
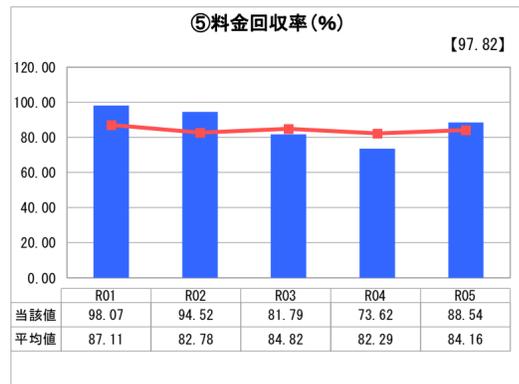
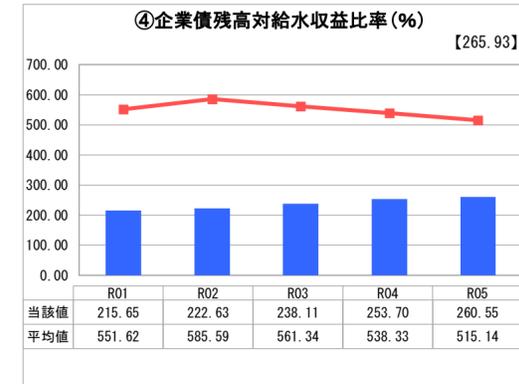
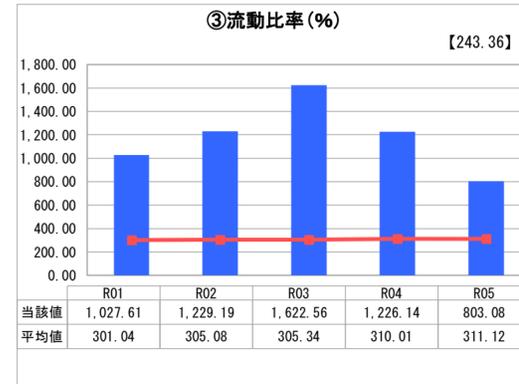
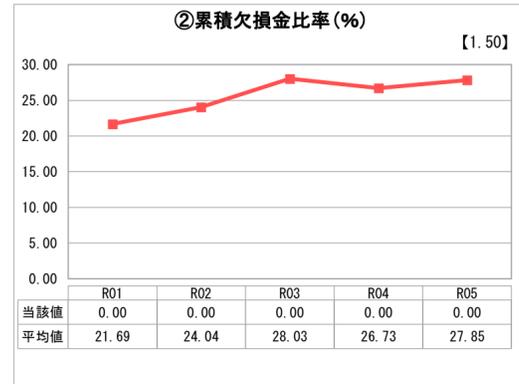
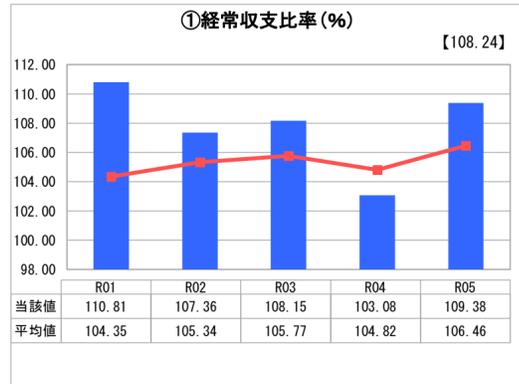
神奈川県 松田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	82.23	83.33	1,485	

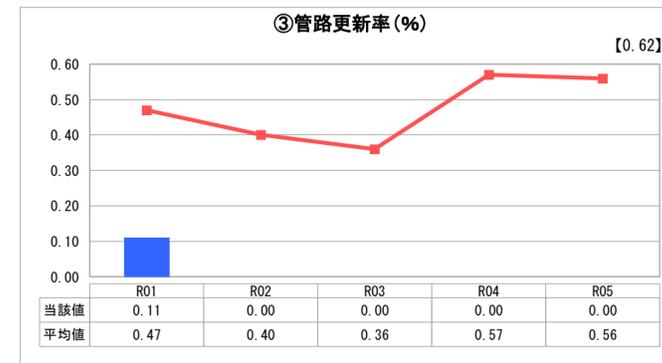
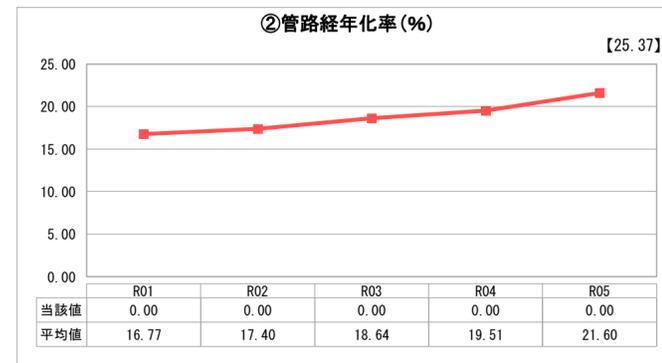
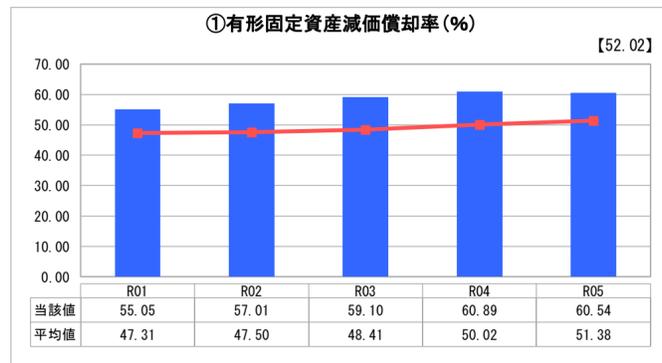
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
10,487	37.75	277.80
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
8,680	2.35	3,693.62

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%を超え、累積欠損金比率が0%であるため、黒字経営は維持できています。しかしながら、料金回収率は100%を下回り続けており、給水原価も類似団体や全国平均を大きく下回っていることから、使用料設定を大きく見直すことが必要であるといえます。また、施設利用率の低い状況が続いていることから、効率性の観点により、施設更新時等の機会にダウンサイジングを検討するなど、将来予測も踏まえた分析を基に更新を図る必要があります。

2. 老朽化の状況について

管路の更新は、開発に伴う小規模な敷設替えに留まっており、大規模な本管の更新は、耐震化の優先などを考慮し、計画的に実施していきます。今後更新時期を迎える施設は、費用が高額となる施設も多く、毎年度、高額の更新費用が必要となります。施設ごとの利用率などを鑑み、効率性と合理性を持った施設更新を行う必要があります。

全体総括

給水人口の減少や節水家電の普及などによる使用料収入の減少により、将来的な施設更新の財源確保の見通しが立てにくい状況が続いており、現状のままでは起債に頼った施設更新にならざるを得ない状況です。長期的な展望に立って、定期的に料金改定を検討し、安定した経常収支比率と料金回収率の達成、管路更新の推進を目指すことが重要と考えています。